

第3回県立野市総合公園再整備方針検討委員会における委員の主な意見

資料2

項目	番号	意見の内容	対応方針	対応案
動植物の 飼育・展示について	(1)	混合展示する場合、動物の種類によっては上手く順応しない場合がある。他の動物園での混合展示の失敗例を含めて検討し、種を選定していただきたい。また、群れで過ごす動物については群れを成すように育成することで社会性も含めた展示を目指していただきたい。	実施時に対応	H9年に開園したサバンナ大展示場では、開園時から平成28年まで、キリン、シマウマ、セーブルアンテロープの3種の混合展示を行ってきました。今後は、他の動物園での混合展示の事例も調査・研究し、上手く順応できるように取り組み、サバンナ大展示場の魅力を高めるため、3種以上の展示を目指したい。
	(2)	個体を紹介して、来園者が個体識別して観察することが出来れば、より各個体の特徴や行動特性の理解が深まり、観察時間を長時間にすることができ、満足度が上がると思う。	実施時に対応	現在も各々の展示場に専用の掲示板を設置して可能な限り個々の動物の名前や特徴を紹介している。今後も来園者に個々の動物に興味を持っていただけるように取り組む。
	(3)	整備方針で詳細にコレクションプランを記載しているが一般的ではないと感じる。	修正 (P.22 コレクションプラン)	NCPについて、下記理由により現状のままとして。 ・獣舎を再整備するにあたり対象となる動物を決定しておく必要があること ・動物の決定においては、様々な分野の専門家の意見を聞いたかったこと ただし、カワウソを数種類確保するため、NCPにビロードカワウソを追加する。
	(4)	NCPにおいて、検討種にツメナシカワウソを記載しているが、動植物の飼育・展示方針にカワウソ3種の展示について記載していることから検討種に含むか再検討いただきたい。	修正 (P.14 主な展示の取り組み)	本県にも関係が深い <del>3種</del> のカワウソ( <del>ユウラミアカワウソ、ツメナシカワウソ、コツメカワウソ</del> )については、見比べることができるよう <del>分数種類</del> の比較展示を行います。
	(5)	検討種で「本園の特色に合致しているが繁殖や個体の入手が難しく飼育展示の継続が厳しい種、及び今後新たに導入を目指す種」とあるが、継続が難しい種と新たに導入を目指す種が分かる様に記載いただきたい。	修正 (P.22 コレクションプラン)	検討種： <del>本園の特色に合致しているが、繁殖や個体の入手が難しく、飼育展示の継続が厳しい種及び今後新たに新規導入を目指す種。</del> 本園の特色に合致しているが、繁殖や個体入手が困難なため飼育展示の継続が困難な種。現在は飼育していないが、将来的に導入を検討したい種。
	(6)	植物の展示の考え方について、主な導入検討種の内容を再度検討いただきたい。細かいミスについては後日修正いただきたい。	追記 (P.15 植物の展示の考え方)	植物の展示については、各ゾーンの特色に合わせた植栽を行うこととし、導入検討種として以下の植物をイメージしています。選定の際には、専門家の意見も踏まえながら、栽培可能な樹種を選定します。
管理運営 について	(7)	管理運営で気になったこととして、展示数をみると飼料代の削減が難しいのではないかと。動物のニーズに合う飼料を提供できるように金額を確保いただきたい。また、制度として出来るか不明だが、規格外の野菜をJAから譲り受けるといった節約は有効だが、飼料の質を落とすようなことは避けて欲しい。	修正 (P.20 管理運営費の削減)	<del>飼料代や光熱水費の高騰に対する取り組みとして、飼料については、地域の企業や農家との協力体制を積極的に図り、一定の品質を確保しつつと量を確保しながら内容の見直し食材の受け入れを行うなど、飼料代の削減に努めます。</del> 高騰に対応していきます。 また、施設の新設及び改修を行う場合には、 <del>自然エネルギーや省エネルギー</del> 効率の高い設備を導入し、 <del>光熱水費の削減を図ります。</del>
	(8)	安い飼料になると栄養価が高すぎて環境エンリッチメントにならないことが多々ある。環境エンリッチメントを推進するならば、飼料代の確保が重要となる。飼料代の増額とまでは言わないが、今確保できている予算の有効活用を考えていただき、飼料代を見かけ上削減するようなことは避けていただきたい。	修正 (P.20 管理運営費の削減)	
	(9)	動物の逃走防止対策など安全対策の記載があるが、動物の移送の際に人身事故を起こさないという決意表明を入れていただきたい。	修正 (P.16 ガイドラインに準拠した環境づくり)	また、動物の <del>逃走</del> 逃走防止対策の設備の点検や <del>逃走防止対策訓練</del> を定期的に行います。放飼場及び動物園外周の対策のほか、地震時の災害発生 <del>の</del> による停電等にも対応可能な対策を行います。 さらに、 <del>動物の飼育や放飼、収容作業における人身事故の発生を未然に防ぐため、</del> 教育と安全管理に取り組みます。
	(10)	管理運営費の削減に自然エネルギーやエネルギー効率が高いものの導入について記載されているが、自然エネルギーの活用はそれなりのコストがかかるため、環境負荷の低い動物園の運営が直接的に管理運営費の削減につながるかは限らない。	修正 (P.20 管理運営費の削減)	また、施設の新設及び改修を行う場合には、 <del>自然エネルギーや省エネルギー</del> 効率の高い設備を導入し、 <del>光熱水費の削減を図ります。</del>
	(11)	寄付金については、寄付金の必要性を伝えやすい「施設整備の推進」を目的に募ることが最も有効な手段である。集めた寄付金で施設整備の推進に必要な人件費にも充てていくことが重要である。	実施時に対応 (基本方針には盛り込まない)	施設整備を行う際は、目的を明確化して、ファンドレイジング等の実施を検討します。
(12)	Park-PFIについて、こちらは動物園と違う枠組みで書く内容と理解はしているが、これが自然（環境）教育プログラムとつながるのか分からない。	修正 (P.20 収入源の確保)	自然体験ゾーンの未整備区域の整備においては、事業者負担の軽減や施設の魅力向上などの効果が期待される、 <del>Park-PFI（公募設置管理制度）</del> 民間活力の導入についても検討します。	
施設整備 について	(13)	ペンギン舎の給排水について問題となっているが、鳥インフルエンザの観点から抜本的にリニューアルも含めて検討いただきたい。(委員会後追加意見：すでに給排水の改修工事が進行中と伺いました。ここにペンギン舎の給排水設備を掲載すべきか否かも含めて修正を検討ください。)	修正 (P.6 主な施設の老朽化)	ペンギン舎（給排水設備 獣舎・屋内外展示場） 老朽化状況：設置後32年を経過しており、老朽化が進行。 <del>屋外・屋内プールを同じ機器で濾過・冷却しているの</del> で、 <del>負担が大きい。</del> 屋内展示場は空調設備の性能低下、屋外展示場は擬岩部分の剥がれによる景観上の劣化が著しい。 (P14追加→)雨天時や鳥インフルエンザ対応時等にも来園者が動物を見られるように、室内展示場の整備を進めます。
	(14)	再整備方針を策定するうえで、動物に従事する現場の従業員と計画を考える人の間に翻訳者が必要である。	実施時に対応	再整備に向けた基本設計を行う際は、専門家の意見を踏まえながら進めていきます。
	(15)	再整備計画のイメージ（想定事業）で第3期に動物病院等の修繕が記載されているが、第3期では遅いのではないかと。	変更なし	設備の老朽化等についてはその都度、修繕等により対応する。建造物については構造が強固であり、耐用年数を考慮しても現状で問題ないと判断する。
	(16)	ファミリーレジャーゾーンを廃止と記載されているが、老朽化や施設の新整備などに資本を集中投資し、高質化するために用途廃止するといった内容を記載いただきたい。	修正 (P.9 都市公園としての基本的な考え方)	これらのことを踏まえ、 <del>野市総合公園については、</del> 今後は、自然動物園ゾーンを中心に施設整備や老朽化対策等を進め、公園の機能強化及び魅力の向上を図っていきます。

項目	番号	意見の内容	対応方針	対応案
動物福祉について	(17)	基本理念の細かい言葉遣いが気になる。「身近な動物とふれあう」とはどのようなイメージなのか。「動物の少子高齢化」は一般的な言い回しではない。また、「種の保存」や「種の保全」が混在してしまっている。改めて、言葉の整合性を確認いただきたい。 (委員会後追加意見：「身近な動物たちとふれあうことで」は、「多様な動物たちと交流すること」としてはいかがでしょうか。 「動物の少子高齢化の課題」「種の保全」については、動物の高齢化などの課題「種の保存」をお願いします。)	修正 (P.11 「人のいきいき」)	○教育プログラムや実習だけでなく、季節のイベントなど、 <del>通じて、身近な動物たちとふれあうことで多様な動物たちとのふれあい※</del> を通じて、命の大切さを実感し、新たな発見や学びが得られるような機会をつくります。 ※来園者と動物に関わる間接的～直接的なもの、体験的～教育的なものまで幅広い活動分野を含む。  ○動物公園の動物の少子高齢化や繁殖率の低下などの課題に対して、将来にわたって命をつなぐ種の保全存に取り組みます。
	(18)	環境エンリッチメントの追求について、作っただけで使わなかったら意味が無いため、ハードだけでなく従業員の使いやすさなどソフトの観点も含めて検討した方が良い。	実施時に対応	実施時に検討します。
	(19)	また、動物の五感に刺激を与える壁面の変更とは具体的にどのようなことを考えているか知りたい。	修正 (P.16 環境エンリッチメントの追求)	○動物の行動の選択を増加させるための構造や、設備の変更・追加、動物の五感への刺激を <b>与えるための壁面の色の変更や</b> 、ハズバンダリートレーニングを考慮した構造の工夫、繁殖等に必要な隔離用のバックヤード等の必要性などを検討しながら、動物の生活への配慮した環境づくりを進めていきます。
	(20)	環境エンリッチメントの検討については、現場の職員のアイデアや見学、HPの情報など、職員と一緒に整備方針を作っていただきたい。前回、動物福祉について説明したが、のいち動物園も、動物福祉事業を進める際にJAZAの適正ガイドラインは最低反映いただけたらと考える。	実施時に対応	「JAZA適正施設ガイドライン」に準拠し施設整備等を進めていく。
	(21)	昨年、世界動物園水族館協会で公表された地球温暖化対策にかかる内容を取り入れ、PRしていけば先進的に進められていることが伝わるのではないかと。	修正 (P.16 ガイドラインに準拠した環境づくり)	このため、JAZA適正施設ガイドライン等に準拠するようしJAZAの福祉チェックにも対応できるよう、効率的に改修を進めていく。 (P.17に追加↓) ■脱炭素に向けた取り組み WAZA(世界動物園水族館協会)が発行する「動物園や水族館における炭素の削減、測定、オフセットの指針」を参考に、有機廃棄物のリサイクルの推進や再生可能エネルギーの追加導入など、脱炭素社会の実現に資する取り組みについても検討していきます。
	(22)	最近は触れないふれあいなどといった様々な考え方があるため、のいち動物園らしいこども動物園の整備を進めて欲しい。	実施時に対応	実施時に検討します。
学びと憩いの空間形成について	(23)	「インクルーシブ」とはユニバーサルデザインの上位概念であるが、遊具にしかかかっていない。再整備方針内での書き方について再度検討いただきたい。	修正 (P.18 (4) 学びと憩いの空間の形成方針)	【基本的な考え方】 インクルージョンの理念に基づき、誰もがいきいきしながら、学び・憩うことができる空間づくりに向けて、 <del>ユニバーサルデザインの考えに基づいた園路や施設のバリアフリー化やユニバーサルデザイン化、インクルーシブの理念に基づいた遊具の導入、誰もが容易に受け取ることができる情報の提供などの取組を行っていきます。</del> 、それぞれのニーズに応じた取り組みを行っていきます。 また、多様な背景をもった来園者のそれぞれの抱える人たちのニーズに応じた楽しみ方(休みながら楽しむ・食を通じて楽しむ・学びながら楽しむなど)ができる空間づくりに向けた取組も進めていきます。ができるよう、情報発信や、教育プログラム等の企画の充実、トイレや休憩所等の環境づくり、住民との協働による魅力向上に資する取り組みも進めていきます。  ■ユニバーサルデザイン化による快適性の向上 今後、インクルージョンの理念に基づき、誰もがさらに安全で快適に過ごすことができる環境の創出に向け、園内のユニバーサルデザイン化の推進とともに、 <del>利便施設の充実を図ります。を進めていきます。</del>  ■インクルージョンインクルーシブの理念に基づく遊具の導入や憩いの場づくり 今後は、体に障がいがある子もない子も、一緒になっていきいきと遊ぶことができる空間の創出をめざし、老朽化対策として行う遊具の更新のタイミングなどにあわせて、インクルーシブ遊具の導入を進めます。また、子どもだけでなく、多様な世代の同行者も憩うことができる空間づくりを進めます。
	(24)	生物多様性国家戦略を受けて、各自治体で地域戦略が作成されているため、この計画との関連性が分かる様ように再整備方針をとりまとめていただきたい。	修正 (P.19 自然(環境)教育プログラムの充実)	「生物多様性こうち戦略」の行動計画に基づき、自然の大切さや生命の尊さを学習する自然(環境)教育の場として、公園スタッフやボランティアと協働のもとで、 <del>動植物や動物公園のこと、自然や生物多様性等について、誰もが学べる教育プログラムのを充実していきます。</del> を図り、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めます。
	(25)	自然(環境)教育プログラムの充実について、持続可能な社会をつくる人材を育てるといった行動変容につなげるような内容を加筆いただきたい。		
	(26)	ぜひ高知県らしい教育プログラムを検討いただきたい。副園長から小学校2年生の国語の教科書にビーバーについて勉強する機会がある話もあったが、このような内容を反映したら高知県特有の教育プログラムになると考える。	実施時に対応	実施時に検討します。
	(27)	観光拠点としての魅力向上に向けた意見だが、SNS発信の継続に加え、リアルでの様々な背景を抱える人たちとの連携についても検討いただきたい。	実施時に対応	実施時に検討します。
	(28)	利便施設についてはトイレが重要となる。特別なトイレの新設とまではいなくても、例えば、男性用トイレでも荷物置きを設置したり、女性トイレに化粧直しが出来るスペースを拡張したりするなどの空間整備が必要になる。	修正 (P.18 ユニバーサルデザイン化による快適性の向上)	今後、インクルージョンの理念に基づき、誰もがさらに安全で快適に過ごすことができる環境の創出に向け、園内のユニバーサルデザイン化の推進とともに、 <del>利便施設の充実を図ります。を進めていきます。</del>
(29)	自然教育プログラムの充実においては、野生動物が置かれている現状を伝えるような展示も続けて欲しい。	実施時に対応	野生動物、特にのいちで展示している動物のおかれている現状等について、来園者に伝える展示を検討していく。	